

# 岐南町公共施設のあり方サウンディング調査の実施結果について

令和8年3月18日

岐阜県岐南町

## 1 サウンディング実施の経緯

岐南町の公共施設の多くは、建設から数十年が経過し、厳しい財政状況の中、老朽化や維持管理コストの増加、利用率の低下などの課題が顕在化しています。また、地域ニーズの変化やライフスタイルの多様化により、施設の機能や役割の再検討が求められています。

こうした課題に対応するため、公共施設の利活用や維持管理における多様な可能性を探るため、こども・子育て支援、教育、高齢者支援のいずれかに資することを要件として、民間事業者のアイデアやノウハウなど幅広い意見・提案を収集することを目的に、サウンディング調査を実施しました。

## 2 実施スケジュール

日程	項目
令和7年10月27日	実施要領の公表
令和7年11月10日～11月21日	現地見学会の開催期間(随時)
令和8年1月13日～1月23日	サウンディングの実施
令和8年3月	実施結果概要の公表

## 3 参加事業者

業種	参加者数
子ども・若者支援を専門とする法人	1者
子育て支援・出版法人	1者
教育関連法人	1者
子育て支援を専門とする法人	1者

※ なお、上記以外の法人1者について、提案書の提出があったものの、サウンディングは所用により不参加。

## 4 サウンディング結果の概要

対象施設	提案内容
東町民センター	東小学校地区における、東町民センターを活用した子どもの放課後の居場所づくり事業の展開の提案。運営は、委託事業を想定。 内容としては、「学び」、「運動」、「体験」の3つの柱で、放課後ならではの魅力や環境を活かしたイベントや体験活動を幅広く展開するものである。 とりわけ、「学び」については、基礎学力の向上や学習習慣の定着とともに、学ぶこと・知ることの楽しさへの気づき・好奇心の醸成を目指す。

対象施設	提案内容
町民センター (東、西、徳田、三宅)	<p>買取及び長期貸付は困難であり、委託事業での運営を提案。施設の維持管理費については、町が負担することを前提。指定管理については、検討の余地があるものの、人員配置がネックである。</p> <p>町民センター4施設には「リトルフリーライブラリー」と、4つのテーマで特徴を出した本のコーナーを設置することで、地域の交流拠点とする。</p>
ほほえみ会館	<p>買取は困難である。</p> <p>ほほえみ会館は、療育型の発達支援センターとして活用し、乳幼児から中高生までの切れ目ない発達支援と保護者支援を実施する提案。事業の展開にあっては1年間の試験的運用から実施。</p>
図書館	<p>買取は困難である。</p> <p>図書館は、中高生の居場所(ユースセンター)及びカフェ機能を持つ文化的交流拠点として活用する提案。</p> <p>なお、改修については、トイレ・水回り工事のみ改修し、什器・照明・レイアウトの見直しにより、長時間滞在しやすい空間を目指す。</p> <hr/> <p>買取及び長期貸付は困難であり、委託事業での運営を提案。施設の維持管理費については、町が負担することを前提。指定管理については、検討の余地があるものの、人員配置がネックである。</p> <p>図書館は、廃棄本をリトルフリーライブラリーに活用して本の循環を促進する。子育ての統一ブランドで展開し、単なる「子育てしやすい」という負担軽減から一歩踏み出し、「質の高い遊びと学びを提供する町」としてブランド価値を高める。</p> <hr/> <p>買取及び長期貸付は困難である。</p> <p>図書館は、指定管理制度導入により開館時間延長や開館日の増加を図る。図書館を、子どもたちの学び・体験の機会を提供するハブとして位置づけ、町内各施設との連携を通じて、学びの輪を広げる提案。</p> <p>館内の配架・諸室のレイアウト変更により機能向上を図るとともに、蔵書テーマ設定・選書ブラッシュアップも図る。</p> <p>また、館内での子ども向けイベント、駐車場等の館外を利用した屋外イベント、各施設へのアウトリーチも展開する。</p> <p>中高生向け学習ラウンジ、自習室を設置する提案。</p>

対象施設	提案内容
総合健康福祉センター (やすらぎ苑)	<p>買取は困難である。</p> <p>やすらぎ苑を核としてほほえみ会館と図書館を連携させ、0～18歳を切れ目なく支える子ども・若者支援拠点を構築する提案。</p> <p>事業実施にあっては、使用許可、業務委託、必要に応じた長期貸付での運営を提案。なお、維持管理費は町が負担することが前提。</p> <p>提案内容としては、空間と設備を活かし、中高生の居場所（ユースセンター）及び不登校児の居場所（日中フリースクール）として活用するとともに、健康増進の空間は、高齢者と中高生が時間帯を分けて共有し、世代間交流を図る提案。なお、中高生の居場所として週2回程度から開始し、送迎車両が必要であるとの意見。</p> <p>子どもの声を聞いて一緒に事業を創り上げていくことをコンセプトとしている。学校や社協との連携、企業寄付の活用を提案。</p>
	<p>買取及び長期貸付は困難であり、委託事業での運営を提案。施設の維持管理費については、町が負担することを前提。指定管理については、検討の余地があるものの、人員配置がネックである。</p> <p>やすらぎ苑を多世代が交流できる「子育て・知育複合センター」として中核に据え、町民センター4施設（東、西、徳田、三宅）と図書館を連携させる提案。</p> <p>やすらぎ苑は、3階部分の大浴場・大広間を未就学児向けの遊び場と小学生以上向けの学習スペースを整備する。自社運営施設で培った遊びのデザインを活用し、親子交流や多世代交流が生まれる空間設計を目指す。</p>
	<p>買取及び長期等有償貸付の意向はなく、補助金による事業実施を希望。将来的には指定管理運営を視野に、段階的に事業の拡張も検討していく。現時点においては、町が施設を所有し維持管理費を負担する前提。</p> <p>やすらぎ苑を活用した子育て支援の新拠点づくりを提案。</p> <p>第一段階では、子育てサロンと相談カフェを開設し、孤立防止と早期相談支援を実現する。</p> <p>第二段階では、食堂活用・食育事業、就労マッチング、ママ防災士育成へ機能を拡張する。</p> <p>第三段階では、岐南町モデルを確立し、多世代交流拠点をを目指す。</p> <p>既存施設を活用することで低コスト・早期実装を実現し、「制度」と「暮らし」をつなぐ伴走支援により、「子育てするなら、岐南町。」のブランド確立を図る。孤立防止、早期相談、地域共助の3つの柱で、子育て世代の定住促進と地域活性化に貢献する。</p>

## 5 サウンディング結果を踏まえた今後の方針

今回のサウンディング調査結果や町民意識調査の結果などを踏まえ、公共施設のあり方や利活用について検討してまいります。